

を卒業、同年渡米、同二十九年、ロンドン大学に入學、同三十四年卒業して、マスター、オブ、アーツの學位をうけ、同三十九年に歸朝、伊藤公からは官吏たるを、後藤伯からは満鐵入りたるを、勧められ

合せて、英文邦文の週報として、今尙紐育で繼續して居るのである。大正十三年、立候補に際して、選挙権正を標榜して、選挙大学講習會を開き、其受講者同数の投票を得たるが如き(但落選)も一の創見といふべしである。

世界各地より蒐集し、之を整理して世界各地に販賣するといふ經營法であつて、其製品の如きも、藥局方藥品は、塩酸モルヒネ以下二十四種、新藥はパンモルフオン以下十六種、新製劑はサヤスター七

大正四年から「官吏學」の著述に着手し、大正十一年の暮迄に、四巻を出版し、昭和十二年「お母さんの創つた日本 日本略史」を出版、之を英文、スペイン文、支那文に譯し、又同十三年には、支

る所に従ひて、炬を論ざる。眞に練達の士、しかも元氣は旺盛! 壯者を凌ぐ激刺! 國策完成の爲に、將た人類幸福の爲に、愈々自重加餐、大に献奉奉公、世界的偉材たる使命を完うせられよ。これ衷心より念願して已まない次第である

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義
- 二、村内外公私各機關の活動状況を報導し併せて其協力を圖り、總體和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村自治者及本村關係者の聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の利益は子孫に傳ふる遺言を養ふるものなり

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の利益は子孫に傳ふる遺言を養ふるものなり

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の利益は子孫に傳ふる遺言を養ふるものなり

内郷村報

天法人 則 從順 ナルベシ

選舉肅正を 提唱十餘年

漸く曙光顯現!

大内民惠

明治時代の末期より、大正時代を経て、昭和時代の初期頃は、政黨華やかなる時代であつて、同時に官制は紊亂し、民心は腐敗した時代であつた。

予は其専門とする國民教育上、之が影響するところ多大なるべきを、痛感したるあり、其革新肅正を思ひ立ち、本紙上に秃筆を呵して、之を徹底的に検討し、劃期的改革案提唱を開始した。實に昭和六年二月一日發行の本紙第七號からであつた。

爾來十有餘年、侃々諤々、忠憤なき所信を披瀝すると共に、我國空前の試みである「政見聽聞會」の開催、選挙権正委員としての獅子吼等々、心魂を打ちこんで、國民啓蒙の使命に邁進したのであつた。

今や我國は、大東亞戦争に當面して、戦線に、將た統後に、一體一體となつて、國策完遂に精進する機運を招來し、來るべき衆議選舉に於ても、予の所謂「統制選舉」(本紙一月號所載)が行はるゝこととなつた。是は、誠に慶賀すべき次第である。

畢竟するに、之れ時局をして然らしめたことではあるが、予が年來の提唱が、漸次顯現せられたるあることを思ふ時に、衷心愉悅の感にうたれたざるを得ないのである。今こゝに予が十有餘年に亘り、本紙上に論議したる題目を列挙して、讀者諸賢の參考に資し、之が協力を仰ぐと共に、自己陶醉をほしむるにじやうと思ふ。

一、大臣なんて悪い事をするものです。(昭和六年二月一日發行本紙第七號)

これは當時の大内を始め、大小官吏を戒しめたもの。

二、他山の泥土。若松市長問題我等は何を學ぶか。(昭和六年六月一日發行本紙第十一號)

これは當時に於ける若松市長選挙に關する醜態を論じたもの。

三、いよく選挙革新案實行 政見聽聞會 天下に範を示せ。(昭和六年十月一日發行本紙第十五號)

これは縣議選舉に際し、予が私費を以て郡内五候補者全部を招聘

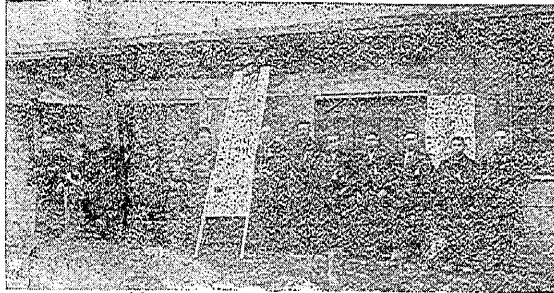
して開催。其政見を發表せしむ。聴衆一千三百。これ全國の嚆矢。

四、政黨の爪牙 惡二千石。(昭和七年一月一日發行本紙第十八號)

これは當時に於ける全國の縣知事に一大痛棒を與へたるもの。

五、前回の以上の好成績を示した第二回政見聽聞會 聴聞者千三百余名。(昭和七年三月十日發行本紙第二十號)

これは衆議選舉に際し、予が私費を以て、第三區四候補者全部を



第二回政見聽聞會會場前の一我一家と應援有志

して開催。其政見を發表せしむ。聴衆一千三百。これ全國の嚆矢。

四、政黨の爪牙 惡二千石。(昭和七年一月一日發行本紙第十八號)

これは當時に於ける全國の縣知事に一大痛棒を與へたるもの。

五、前回の以上の好成績を示した第二回政見聽聞會 聴聞者千三百余名。(昭和七年三月十日發行本紙第二十號)

これは衆議選舉に際し、予が私費を以て、第三區四候補者全部を

八、選挙権正に關する答申書。(昭和十年六月十日發行本紙第五十七號)

これは予が本縣選挙権正委員會の委員として、其委員會に出席、知事の諮問に對する答申書であつて、當時の代議士若くは縣議たる同役二十余名に向つて、諸君等は嚴密に云へば、選挙法違犯の前科者なりと絶叫して、一言なからしめた一文である。

九、先づ立候補者に献言す。(昭和十年七月十五日發行本紙五十八號)

これは縣議選舉に際し、立候補者の心得を書いた一文。

十、衷心より選挙人各位に。(昭和十年八月十五日發行本紙第五十九號)

これは前文同時縣議選舉の際、選挙人の心構を書いた一文。

十一、縣下の官憲へ 候補者へ有権者へ。(昭和十一年二月十日發行本紙第六十五號)

これは衆議院議院選舉に際し、官憲、候補者及有権者への戒告。

十二、代議士の子孫と 市町村議選舉。(昭和十一年五月二十日發行本紙第六十八號)

これは墮落せる代議士の末路と市町村議選舉の心得を書いた一文

十三、公民道の確立と 選挙法改正案。(昭和十一年七月十五日發行本紙第七十號)

これは縣選挙権正委員として、知事の諮問に對する答申書にして時弊を論難して其對策を講じたる一文。

十四、日本精神と 選挙精神。(昭和十二年三月十五日發行本紙第七十八號)

これは市町村議選舉に當面してこれを説きたる一文。

十五、解散に當面して 有権者へ

候補者へ。(昭和十二年四月十五日發行本紙第七十九號)

これは題目に就いて、年來の理想を説いた一文。

十六、此時局を好機として、各政黨は之を解消せよ。(昭和十三年八月十五日發行本紙第九十五號)

これは天下に先立つて提唱した一文。而して問もなく實現。

十七、予が縣議立候補とは、笑止千萬な話。(昭和十四年三月十五日發行本紙百二號)

これは當時新聞紙上、予が縣議立候補を傳へられたので、今時の墮落した縣議の仲間入などは眞平さ一笑に附した一文。

十八、縣議選舉も 亦貴議選舉に倣へ。(昭和十四年八月十五日發行本紙百七號)

これは縣議選舉に際し、貴議選舉が比較的肅正無競争で行はれたるに倣へよと戒告した一文。

十九、減私奉公の精神を以て 新政治体制を結成せよ。(昭和十五年七月十五日發行本紙百八號)

これは時局に鑑みて草したる一文。漸次其實現を見るは愉快。

二十、新政治体制は 新教育体制から。(昭和十五年九月十五日發行本紙百二十一號)

これはその當然の歸結問題を論議したる一文。

二十一、臣道實踐と 大政翼賛の意義。(昭和十六年三月二十五日發行本紙百二十六號)

これは議會對大政翼賛會問題を検討して、其纏ふべきを提唱したる一文。

二十二、大政翼賛下の 選挙はかくてこそ。(昭和十六年九月二十五日發行本紙百三十二號)

これは縣議補選に際し、那内町村長が一致して、木村氏を推

以下第二面へ續く!

一面より續く一
 薦したるを推稱したる一文。
 二十三、帝國議會と海外同胞激勵會。(昭和十六年十一月二十五日發行本紙第百三十四號)
 これは臨時議會を傍聴して、劣悪低級なる議員の多いことを痛罵した一文。
 二十四、自由選挙と 統制選挙。(昭和十七年一月二十五日發行本紙第百三十六號)
 これは推薦選挙を説いた一文であつて、正に中央論議の先蹤をなすこと約一ヶ月!

三月の常會徹底事項

- 一、翼賛選挙の徹底
 四月末執行せらるべき衆議院議員選挙にあたり、内務省を中心として、大政翼賛會及び選挙肅正中央聯盟協力の下に、大東亞戦争完遂を目標とする翼賛選挙徹底の奉國的國民運動を展開する事。
- 二、戦勝感謝郵便貯金の實踐
 恒久性ある貯金を吸収する爲特に定額貯金及積立貯金一戸一口以上勸奨し成るべく長期高額のものを以て具体的効果を收むること。
- 三、自給肥料の増産
 戦時食糧の確保、特に農作物の増産は大東亞戦争遂行上絶対の要件なるを以て之に要する堆肥、綠肥、塵芥、木灰等に依る自給肥料の増産を圖ること。
 ヒマの栽培献納
 ヒマは航空機潤滑油原料として重要な國防資源なるに鑑み、大政翼賛會帝國農會共同主催にて、國民の愛國心に懇へ、凡ゆる空地を利用し、ヒマの栽培を奨励し、收穫種子を軍に献納せしめ、國防の強化に資する爲、夫々種子を各家庭に配付し、其栽培を指導し種子の蒐集、集荷については、在郷軍人分會が其衝に行き詰れる現代の教育制度を體して、學理と實際と、歴史と實驗とを新に大内案主義を提唱す。天下知名の士の賛同を以て進められし未だ一人の抗議も現はれず。
- 四、自給肥料の増産
 戦時食糧の確保、特に農作物の増産は大東亞戦争遂行上絶対の要件なるを以て之に要する堆肥、綠肥、塵芥、木灰等に依る自給肥料の増産を圖ること。
 ヒマの栽培献納
 ヒマは航空機潤滑油原料として重要な國防資源なるに鑑み、大政翼賛會帝國農會共同主催にて、國民の愛國心に懇へ、凡ゆる空地を利用し、ヒマの栽培を奨励し、收穫種子を軍に献納せしめ、國防の強化に資する爲、夫々種子を各家庭に配付し、其栽培を指導し種子の蒐集、集荷については、在郷軍人分會が其衝に行き詰れる現代の教育制度を體して、學理と實際と、歴史と實驗とを新に大内案主義を提唱す。天下知名の士の賛同を以て進められし未だ一人の抗議も現はれず。

過去滿十二年間に於て、臨機應變策、以上二十四文を草して本紙に掲載、其約八萬五千餘枚を、全國の知友に頒ち、其批判協力を仰いだのであつた。されど微力の致すところ、殆ど其効果は認められなかつたのであるが、萬事は機運が、將た時局が之を解決して、其革新の曙光を見るに至つた事を思ふ時に、相變らざる秀筆を撫して、感慨眞に無量!衷心から快哉を叫ばざるを得ないのである。

あたり、一面栽培の督勵援助地域内の集荷等には、關係各種團體が、之に協力すること。

佐川校長の榮譽

家政女學校長佐川文雄氏は紀元の佳節にあたり、知事より左の通り表彰をうけた。これ本村に於ける嚆矢で、眞に慶賀の至りである



長 校 川 佐

表彰狀

公立青年學校長 兼同校教諭 正八位 佐川文雄
 多年青年教育ニ盡瘁シ其ノ功績顯著ナリ仍テ金一封ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス
 昭和十七年二月十一日
 福島縣知事正五位勳五等 江邊清夫

此子!此父!!

大字白水平子信政氏の長男將孝君は、一昨年應召し、目下戦地に活躍中なり父信政氏は生來酒を好むが爲、將孝君より酒代にもと屢々送金しあり。此程の音

信中に、「若し戦死すれば天命と諦めて下さい、自分の戦死は軍人として、尤も名譽と思ひ、武人の本懐となすべきこと、自分の戦死の報あるとも、決して取り亂すことなく、ニッコリ笑つて白木の箱を迎へて下さい」とあつて、父君は痛く之れに感激し、送金中より愛國婦人會募集の、飛行機献納資金に五圓を寄附し、今回更に東日新聞社を経て、恤兵部に參拾五圓を献金したりといふ。此子にして此父ありと、隣人をして感動せしめつゝあり。

草野三千雄氏投

- ◎本紙賛助金寄贈芳名
- 金拾圓 内郷 某氏
 - 金五圓 平市 小宅嘉久治
 - 金拾圓 會津 兒島 榮
 - 金五圓 長倉 齋藤榮太郎
 - 金九圓 杉田 第一區 (壹圓宛) 山林堂博信、柴田清藏 (五拾錢宛) 安田彦術、田中藏吉、熊耳重夫、國分新市、國分利國、國分勝利、柴田久夫、山岡今朝吉、柴田四郎、大澤清二、井上茂作、國分利七、大内逸藤太、小林治介。
 - 金拾五圓 杉田 第二區 (壹圓宛) 市川潔、佐々木兵作、佐藤照、市川一、石川庄次、石井清吉、山本知一、渡邊主馬之介、渡邊喜作、市川清松、安

- 齊佐助、佐藤甚藏。
- (五拾錢宛) 安齋喜重、石井市之介、佐藤清治。
- 金拾七圓五拾錢 杉田 第三區 壹圓五拾錢、鈴木卯平治。
- (壹圓宛) 渡邊武治、渡邊兵治、渡邊寅之介、鈴木卯吉、鈴木新藏、國分正、鈴木三造、鈴木寅吉、鈴木忠永、鈴木一彌、菅野大左久、鈴木惠藏、鈴木久正、鈴木吉郎治。
- 金貳拾六圓 杉田 第四區 (壹圓宛) 高田彌介、鈴木丑悪、松本正次、鈴木長市、桑原兵次、大友政壽、大内熊次、甲斐根丑治、小出一造、安田善一郎、原徳左工門、高橋清藏、大山村葉貫佐市、桑原長七、桑原新八、鈴木長藏、本田佐市、高根一二鳥井榮吉、丹羽秀也、菅原勝作、遠藤貞吉、桑原三右工門。
- (五拾錢宛) 安田政由、安田卯作、本田正秋、鈴木清春、平田平作、村田義雄。
- 金貳拾參圓 杉田 第五區 (壹圓宛) 本多歌、本多善吉、本多孫七、安達幸司、高橋和、金澤爲雄、本多善春、桑野武正、金澤平作、狩野吉右工門、狩野吉一、松本清治、國分分治、國分作美、渡邊卯、松本寅、松本馬次郎、渡邊八郎平、渡邊長、渡邊倉治、渡邊春一、渡邊卯平治、佐藤直治。
- 金拾四圓 杉田 第六區 (壹圓宛) 安齋榮、佐藤藏吉、高橋善藏、安田儀作、高根留吉、國分重治、渡邊喜悅、渡邊正巳、大内宇多、高根兵作、佐藤宗五郎、佐藤仙之介、渡邊作治、渡邊吉治。

教育制度改革概論

矢野恒太 大内民恵著
 (四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

愛婦の熱誠壹萬圓

愛國婦人會内郷分會では、海軍飛行機献納資金募集に、愛國婦人會内郷分會では、を執行した。應召兵入營兵の家族及來賓多數參列、莊

我國教育學界の權威

前京大總長小西重直博士
 書を寄せて曰く、多年、御試練ニ基ク我國教育學界ノ大綱ヲ示シ、味仕リ不思議ニ打メ申候云々。

日本評論社

發行所 東京京橋三丁目
 取次所 内郷村報社

ふと云ふ謙讓の美德、何んを麗はしき極みであらう。生活戦線の落伍者を慰撫する温情の濃やかさ、彼等に對して唯一の救いの神と感

各戸に於て之を實行する
 外會社、工場、學校等各
 種團體に於ても強力に實
 行すること。

大内民惠著
 矢野恒太

教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體し
 て、學理と實際と、歴史と實驗とを
 ら新に大内民惠主義を提唱す。天下
 知名の士の發同教學に迫らる。さ
 れど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
 前京大總長小西重直博士
 書を著して、多年の實地研究
 の御試練ニ基ク眞實愛國ノ大精神ヲ拜
 味任リ不思議ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社
 東京橋本三丁目
 取次所 内郷村報社

愛婦の熱誠壹萬圓

愛國婦人會内郷分會では
 海軍飛行機献納資金募集に
 あたり、全會員熱烈に奔走
 全村民亦之に衷心より協賛
 立どころに左の通りの好成
 績を挙げ、沼田會長を始め
 幹部打ち揃ふて出願、其手
 續きを了した。本部に於て
 も其卓拔なる成績に驚嘆し
 たる由。

戦捷奉告と祈願祭

シンガポール陥落の戦捷
 奉告並に聖戰 目的完遂の
 祈願祭を、二月二十八日午
 後一時より、村社住吉神社
 再弔阿兒戰死地

再弔阿兒戰死地
 平 勿山 古泉 延隆
 燕然一角月三圓 再弔沙場立誓煙
 鬼火胡城殘礎外 猿聲絕塞小壁前
 皇軍威武冰霜凍 男子心肝鐵石堅
 爲國殉身誰也哭 忠誠萬古日懸天

近 懷
 東京 牧風 外山 福男
 冀北古來戰戰多 只無伯樂奈然何
 如今國步艱難際 勿使遺賢嘆轉軻

同
 燦矣皇軍戰捷功 電波放途感無窮
 何辭留後倒懸苦 一箇一心期奉公
 ×正誤 前號掲載同氏の「偶感」
 中結句東亞は東洋の誤植

武運 祈願祭
 長久 二月十一日紀元節の佳辰
 を下し、午後一時より内郷
 家政女學校に於て、應召及
 び入營兵の武運長久祈願祭

計金 壹萬圓也
 愛婦分會 一六一〇、四五
 海產物組合 五〇、〇〇
 白水川平 九四五、四〇
 町田竹内 一九三、二五
 内 町 四四七、〇〇
 代蛭子瀧 一〇〇〇、〇〇
 金澤 四一八、〇〇
 宮澤 三三二、五〇
 濱井場 三一五、〇〇
 御殿 五六六、〇〇
 高坂 一三四、四〇
 御台境 一一四、〇〇
 小島 四七二、〇〇
 御殿 四二四、〇〇
 下綴 四六七、〇〇
 上綴 一五一〇、〇〇

男將孝君は、一昨年應召し
 て、目下戦地に活躍中なり
 父信政氏は生來酒を好むが
 爲、將孝君より酒代にもと
 屢々送金しあり。此程の音

特志献金

同氏の特に敬服するところ
 であり、奉安殿寄進を初め
 村内幾多の公共事業に寄附
 献資を惜まなかつた氏は、
 此度又御願國民學校に、樂
 隊用具一式(價格五百圓)
 を寄贈、其徳を多とせられ
 て居る。

二圓六錢 宮澤 玉木トク
 五圓 戦地より 爪生 正明
 六圓 海軍へ 住吉 伊藤榮助
 外二十三人
 六圓 陸軍へ 同上。
 四十一圓九十錢 宮
 泉文藏外十九人
 拾圓 葬儀費節約 陸軍へ
 宮 横山 博
 拾圓 海軍へ 内町坂本イエ
 貳拾五圓 根本 寛司
 四圓三十錢 太田 善坂
 拾圓 一錢貯金
 拾圓 宮 高橋喜一外十二人

窓 口 美 談

方面委員 田口淳三

本村収入役齋藤彌一氏は
 勤績四期に亘る模範収入役
 にして、夙に内郷村に於け
 る國寶なりとの稱號を受け
 て居る。氏は不言實行、謹
 直至誠の人にして常に吏員
 の長敬する處となつて居る
 毎月二回、貧困者約三十名
 に對し救護金の給與をなす
 にあたつて、此日役場に來
 たるものは、身に襤褸を纏
 ひ、顔色蒼衰手足不自由な
 るもの多きも、氏は之等に
 對して殊に親切丁寧「風で
 も引かぬか」と優しい言葉

をかけ、金は一々袋に入れ
 てやり、或者には土間まで
 下りて風呂敷包みとなして
 之を脊負はしむると云ふ親
 切振りである。之を見習ふ
 補助の佐藤澄子嬢も、之亦
 「お爺さん、お婆さん御苦
 勞様です」と、女性本來の
 愛情を以て接すると云ふ有
 様である。齋藤氏は佐藤嬢
 の親切振りを賞揚してをり
 佐藤嬢は又収入役の懇切振
 りに感激敬意を拂つて、之
 れに私淑せんと努めて居る
 主任と助手、互に賞揚し合

産業映畫

決戦産業訓

撮影開始

さきに産業報國會中央本
 部に於て、石炭増産強調文
 化映畫「戦ふ石炭」製作の
 爲に、磐城炭坑坑外の作業
 状態を撮影し、目下録音其
 他の工程を急ぎつゝあるが
 更に産報本部に於て、「決
 戦産業訓」を創作する事に
 決定し、先日日本映畫社
 より、演出、撮影の係員來
 山して、磐城炭坑務課員來
 平野諭氏の現地指導の下に
 炭坑作業を刺す所なく撮影
 中である。而して完成の曉
 には、全國の工場礦山等産
 報關係方面に於て上映され
 る豫定である。

翼賛會支部顧問

記者は二月十九日附を以
 て、大政翼賛會本縣支部顧
 問として、本部總裁より指
 名ありたる旨、本縣江邊支
 部長より通牒をうけた。

本縣の生んだ 世界的偉材

星 翁

大内民恵

一、緒言

或知人から頼まれた私用を遂すべく、星製糖株式会社(東京市品川區西大崎町)を訪問して、社長星一翁に始めて會見したのは、舊臘十二月初旬であつた。かくて會見後、翁の御案内で、營業所、工場及商業學校と藥學專門學校とを參觀し、且つ翁の書かれた、二十幾冊かの圖書を通じて、翁一代の事業を概観し、其人物を大觀した時に、予の念頭に描き出された星一翁は、これ本縣の生んだ全國的否世界的偉材である、深く仰向傾倒させられたのである。



星 翁

先きに本紙の使命として、本縣の生んだ東都の成功者大内齊茂君郷土の人格者高橋直記先生等々幾人かを紹介した予は、今又ここに此偉材を紹介することは、これ予が當然の義務である、大に考へさせられたのである。

二、翁の略歴

翁は明治六年、本郡錦村に生れ明治二十七年、私立東京商業學校を卒業、同年渡米、同二十九年コロンビヤ大學に入學、同三十四年卒業して、マスター、オブ、ブライツの學位をうけ、同三十九年に歸朝、伊藤公からは官吏たるを、後藤伯からは滿鐵入りな、勧められ

三、翁の創見

翁がコロンビヤ大學時代は、二十四歳から二十九歳の間にあつた此間に於て「邦文日米週報」を創刊し、卒業後英文月刊雜誌に日本とアメリカを創刊、後其二者を合せて、英文邦文の週報として今尙編纂中にして居るのである。大正十三年、立候補に際して、選挙權正を標榜して、選挙大學講習會を開き、其受講者と同数の投票を得たるが如き(但落選)も一の創見といふべしである。

四、翁の事業

翁の創見によつて創業され、經營されてある事業の主要は、前項に列挙した通りであつて、其實際にはどうであるかと言ふに、製造家と販賣者とを不可分のものと我が國體精神に基き、協力共榮を根幹とする組織を以て、之が經營にあたり、之を内地は勿論世界各地に水も洩らさぬ組織を張り、資料を世界各地に販賣するといふ經營法であつて、其製品の如きも、藥局方藥品は、塩酸モルホリン以下二十四種、新製糖はチヤヌスター以下十六種、新製糖はチヤヌスター

大正十五年、獨逸政府の補助により、伯林に日獨文化協會を、翌年日本政府の補助により、東京に又之が創立に貢献したる如き、又大正二年台湾に、同三年東京に、鐵筋コンクリートの三階乃至四階の事務所を建設し、日本に於て之が嚆矢をなした如きも、之れ其創見の然らざるを以て、殊に資本主義の株式會社を、家族制度化したチエーン組織とし、或は内地台湾に勿論、南洋南米等々世界各地に、コカ、キナ等々の藥草栽培を創始して成功しつゝあるが如き、或は星商業學校、星藥學專門學校の創立等々を數へれば之

五、翁の研學獎勵と教育貢獻

翁は大正九年、學術研究補助として、獨逸政府に二百萬マク(約八萬圓)を寄贈し、其後三年に亘つて十數萬圓を寄贈したるが如きは、研學獎勵の一例であり、星製糖商業學校(夜學)を創立し、其從業少年に、晝は製糖の實務にあたりしめ、夜はそれに商業教育を興へ、製糖と販賣、一石二鳥の生式を發揮し、七千五百人の卒業生たる販賣者を出して居る。又昨春三十萬圓の財團で、星藥學專門學校を創立、將來を一千萬圓に増加し、早稲大學を目指して、其大成を期して居るのである。

六、翁の榮譽

大正十二年、伯林大學から名譽會員章を贈られ、同年獨逸化學界に盡せし功勞に對し、大統領から感謝狀又名産陶器を、同國學術相互扶助會からは、感謝狀及記念品を、又「星一氏の後援に依る獨逸人の化學に關する學術的研究」と題する一本を、三百部寄贈され、翁は之を日本の各大學及圖書館に頒配したのである。而して、この特筆大書すべしは、畏くも、伏見宮 朝香宮、秩父宮、竹田宮各殿下の御台臨を仰ぎ、殊に、秩父宮殿下からは、御下賜金、朝香宮殿下からは、發明獎勵の御下賜金を拜受する等々、數々の榮譽に浴したのである。

七、翁の著書

大正四年から「官吏學」の著述に着手し、大正十一年の暮迄に、四巻を出版し、昭和十二年「お母さんの創つた日本 日本略史」を出版、之を英文、スペイン文、支那文に、又同十三年には、支

八、翁をめぐる名士

故人としては、伊藤後藤桂の諸公伯、野口博士等々であり、現在に於ては、頭山滿翁を始めとして學界政治界實業界第一流の諸名士であつて、特に頭山滿翁とは、親子的關係にあり、翁が最上の崇拜者であるやに思はれる。以上翁の氣概風格と國士的なる一端を觀るべきである。而して翁の會社及學校には、博士學士等々多士濟々、人材雲の如く其身邊を包んで居る。

九、翁の私生活

予は此一文を草する資料もがなき、今月初旬、突如本郷町なる翁の寓居を訪問、翁御夫妻に會見したのである。御兩所は足立邸に寄寓し、其庭の片隅に、バラツク式書齋をかけたし、同家の子供達を圖書に埋れて、讀書に、概念に將た執筆に精進されつゝ、あるもの如くに思はれた。又階上高く方六尺の、まことにお粗末なサンルームを作り、日光浴と讀書を兼ねながら、日光浴と讀書を兼ねながら、而して翁が、予を案内する爲に其階段を下する時に、念頭一閃予をして、これは翁の感あられた靴下!それこそ所謂五十三つきの靴下であつたことである。此翁!此夫人!一事が萬事!衷心深く考へさせられたことであつた。

十、結語

以上が即ち、予が所謂翁が世界的偉材たる説明の片鱗である。翁今や齡古稀、孔子の所謂心の欲する所に從ひて、短を論えざる、眞に練達之士、しかも元氣は旺盛!壯者を後々瀟瀟!!國策完遂の爲に將た人類幸福の爲に、愈々自重加餐、大に献奉奉公、世界的偉材たる使命を完うせられ、これ衷心より念願して已まれない次第である

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協働を圖り、純潔和議努力の實現を期す。
三、本村共済事業の徹底を期す。
四、村内の善事善行を表彰し、且之を獎勵す。
五、本村と本村以外と本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

して開催。其政見を發表せしむ。
聽衆一千三百。これ全國の嚆矢。
四、政黨の爪牙 惡二千石。(昭和七年一月一日發行本紙第十八號)
これは當時に於ける全國の嚆矢

本紙發行は内郷一衆の事業にして、其の監査は子孫に對する遺言を兼ねるものなり

候補者へ。(昭和十二年四月十五日發行本紙第七十九號)
これは題目に就いて、年來の理想を説いた一文。
十六、此時局を好機として、各政

天法人則 從順ナレ

和七年一月一日發行本紙第十八號)
これは當時に於ける全國の嚆矢

本紙發行は内郷一衆の事業にして、其の監査は子孫に對する遺言を兼ねるものなり

候補者へ。(昭和十二年四月十五日發行本紙第七十九號)
これは題目に就いて、年來の理想を説いた一文。
十六、此時局を好機として、各政